## むすび塾

## 巡回ワークショップ　@仙台・八木山地区

# 「あの日」教訓 心構え新た

## 小中高生ら、街歩き地図作り

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社は5月22日、通算55回目の巡回ワークショップ「むすび塾」を仙台市太白区の八木山地区で開いた。協賛する日本損害保険協会（東京）の安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」を基に、地元の小中高生らが地域の危険箇所や防災設備を点検して防災マップを作り、災害時の心構えを新たにした。

八木山小、八木山中、仙台城南高、東北工大の約20人が3班に分かれ、約1時間かけて巡回。地区にある消火栓や防災倉庫の備蓄品、AED（自動体外式除細動器）が設置されている施設などを確認した。

子どもたちは、亀裂の入ったブロック塀やふたのない側溝を見つけると、「大きな地震が来たら倒れそう」「暗いと足を踏み外してしまうかも」と語り合った。

班ごとに地区の高齢者宅も訪れ、震災や1978年の宮城県沖地震の体験を聞いた。

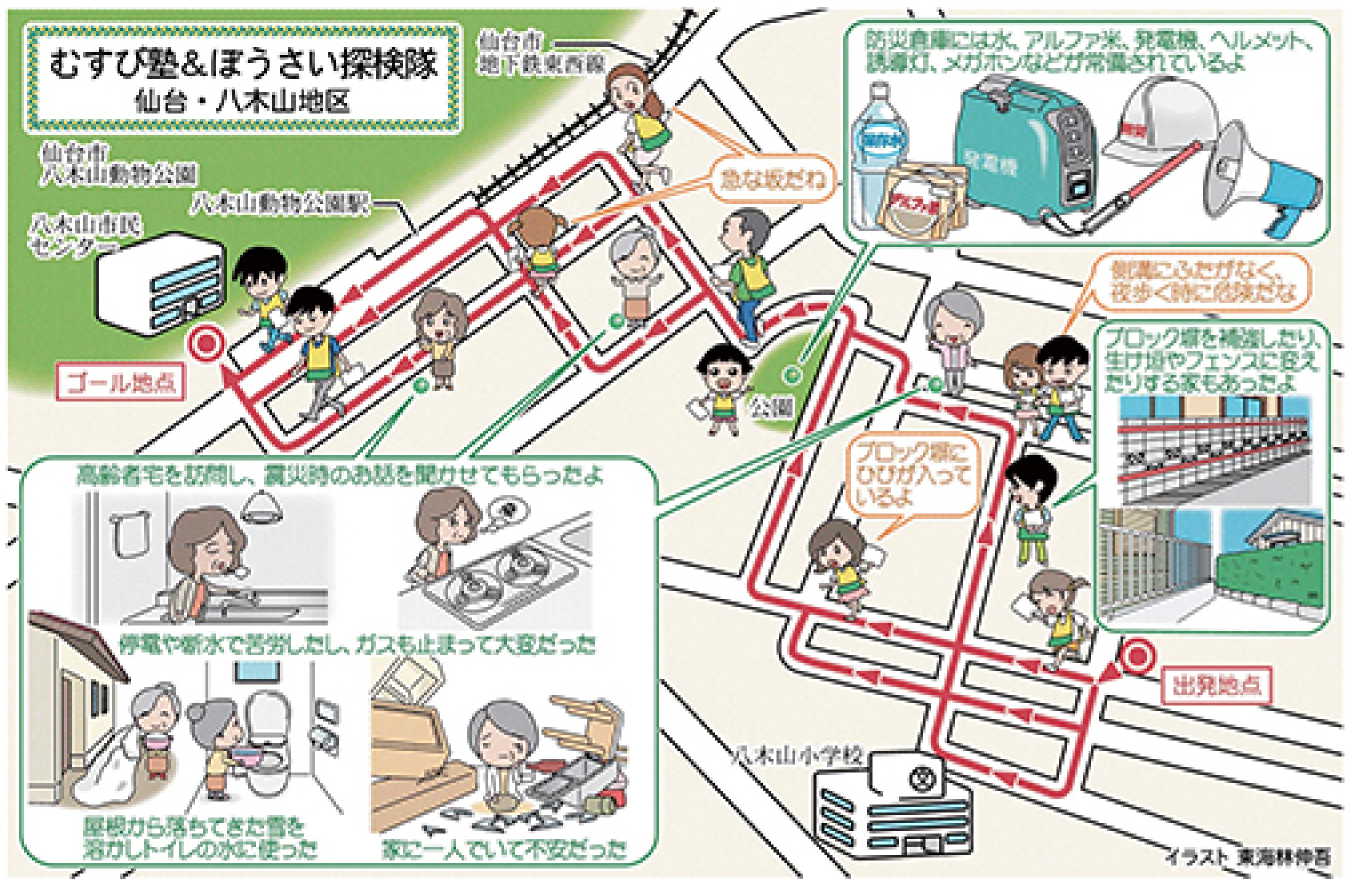
AEDが設置されている施設を確認する参加者

2班が訪問した佐々木慶子さん(75)は「震災の時は家に一人でいる時間が長く、夜が怖かった」と振り返り、給水したポリタンクを運ぶのに苦労したことなども話した。

子どもたちは八木山市民センターで観察結果を大型マップに記入。「防災倉庫に飲料水360ℓやアルファ米1000食分、発電機、おむつがあった」「高い塀が地震で崩れ落ちたら危ない」などと報告した。

コーディネーターとして同行した減災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長は、宮城県沖地震ではブロック塀などの下敷きになって亡くなった人が多かったことを説明した。「八木山地区はブロック塀や擁壁が多いのが特徴。安全なまちづくりに向け、ブロック塀の再点検に取り組もう」と呼び掛けた。

街を探検し、気付いたことを地図に記入する子どもたち

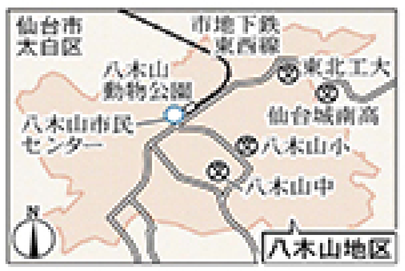


むすび塾&ぼうさい探検隊
仙台・八木山地区
仙台市地下鉄東西線
仙台市八木山動物公園
八木山動物公園駅
八木山市民センター
ゴール地点
急な坂だね
防災倉庫には水、アルファ米、発電機、ヘルメット、誘導灯、メガホンなどが常備されているよ
発電機
側溝にふたがなく、夜歩く時に危険だな
ブロック塀を補強したり、生け垣やフェンスに替えたりする家もあったよ
公園
ブロック塀にひびが入っているよ
出発地点
八木山小学校
高齢者宅を訪問し、震災時のお話を聞かせてもらったよ
停電や断水で苦労したし、ガスも止まって大変だった
屋根から落ちてきた雪を溶かしトイレの水に使った
家に一人でいて不安だった
イラスト 東海林伸吾

### ぼうさい探検隊
### 日本損害保険協会

「ぼうさい探検隊」は日本損害保険協会が2004年に始めた事業。小学生らのグループで地域を歩いて防災・防犯、交通安全面で役立つ施設や危険箇所を点検し、マップにまとめる。年1回のマップコンクールで全国から作品を募り、優秀作を表彰している。河北新報社は、社会貢献活動として防災・減災の啓発に取り組む損保協会の協賛を得て年数回、定例のむすび塾に探検隊のノウハウを取り入れて開催している。

損保協会は探検隊の実施マニュアルを用意し、活動に必要な文具をまとめたキットを無償提供している。詳細は協会の特設ウェブサイトに掲載。連絡先は損保協会啓発・教育グループ03(3255)1215。



仙台市太白区
市地下鉄東西線
八木山動物公園
八木山市民センター
東北工大
仙台城南高
八木山小
八木山中
八木山地区

## 地域組織が「宣言」採択

仙台市太白区の八木山地区は丘陵地に広がる住宅地で、約9300世帯、約1万9000人が暮らす。65歳以上の高齢者が住民の約3割を占める。

地区の町内会や学校、企業、医療・福祉施設などによる地域防災組織「仙台八木山防災連絡会」を2008年4月に設立し、「住みよいまちづくり」「若者」など4部会を設けて活動。現在は39団体が名を連ね、定期的に避難訓練やシンポジウムを開く。災害時の助け合いに生かそうと、日頃から住民同士のコミュニケーションを深めている。

14年12月には「八木山防災宣言」を採択した。①防災意識/日頃からあいさつをして高めよう②子どもからお年寄りまで/お互いに協力し合い助け合おう③普段から/自分ができることを考え災害に備えよう—の3項目を掲げ、災害に強いまちづくりを目指している。

## ■専門家から

## 地震火災への対応重要

減災・復興支援機構理事長　**木村　拓郎さん**

地震には火災が付きもの。東日本大震災当日は仙台市内で通常の25倍の火災が発生した。停電後、電気が復旧した時に通電火災が起きることもある。地震時は電話が集中したり電話線が切れたりして、119番が通じにくいケースが多く、注意が必要だ。

宮城県沖地震では、無理に火を消そうとしてやけどした人が多かった。「揺れたら火を消す」から「揺れたら身を守る」に行動指針が大きく変わるきっかけとなった。

今回の街歩きで設置場所を確認した消火栓は、水道が止まると基本的に使えない。水道が止まることを想定した地震火災への対応が重要になるだろう。歩いた範囲では見当たらなかった防火水槽や街頭消火器の設置が有効だ。

熊本地震ではブロック塀や門柱が倒壊し、道をふさいだ。夜の発生で通行人が少なかったため、被害は最小で済んだが、自動販売機が倒れることもあり注意が必要。揺れが怖いとつい塀の方に寄ってしまうが、絶対に近づいてはいけない。

## 助け合う心が大切

東北工大准教授（看護学）　**伊藤美由紀さん**

八木山地区には町内会などが加盟する「仙台八木山防災連絡会」があり、小中学校や高校、大学と連携して地域防災に取り組んでいる。

地区を子どもたちと歩いてみて、「ハチの巣があって危ない」「地下鉄東西線の駅ができてから車の往来が増え、道を渡りにくくなった」など大人が気付かない指摘も多かった。大人と知恵を出し合って備えられればいい。

子どもたちは高齢者から話を聞くことで、家庭での備蓄の大切さを知ったのではないか。お年寄りの心細さや寂しさも分かったと思う。「こんにちは」「大丈夫ですか」と元気に声を掛けることが、いざというときに助け合う気持ちにつながる。

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は巡回ワークショップ「むすび塾」を2012年5月に始めました。毎月1回、町内会や学校、職場などで開催しています。名称には、人と人、地域と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けたいとの思いを込めました。次回は19日、宮城県山元町のつばめの杜地区で開きます。

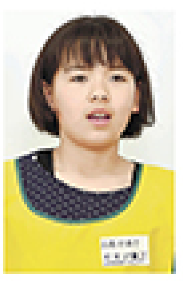
随時、むすび塾の開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室022（211）1591。

## ■むすび塾に参加して ——仙台・八木山地区

【地域を探検して】公園の防災倉庫にいろいろな防災用品が備蓄されていて、安心できると思った。自宅にも水や食料を用意しているが、もう一度点検しておきたい＝八木山小6年・青野菜々子さん(11)

【参加して】水や食料を備えておくよう家族に伝えたい。震災の時、お年寄りが寂しい思いをしていたことが分かった。「大丈夫ですか」と声を掛けるなど、できることをしたい＝八木山小6年・及川涼太君(11)

【地域を探検して】日頃から水や食料を備える大切さとブロック塀の危険性を学んだ。近くを通る時に注意するのはもちろん、塀にブロックを使わないことも大切だと思った＝八木山小6年・下権谷芽生さん(11)



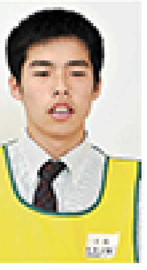
【地域を探検して】消火栓が予想より少なかった。公園の防災倉庫には備蓄品がたくさんあり、家でも水や食料などを用意して地震に備えたいと思った＝八木山小6年・高橋紗英子さん(11)

【地域を探検して】ひびが入って崩れそうなブロック塀があることに今まで気付かなかった。災害時は塀に近づかないようにし、率先して避難誘導できるよう頑張りたい＝八木山小6年・竹田真美さん(11)

八木山中1年　赤坂紗知さん(13)

八木山中1年　酒井ひかりさん(12)

八木山中1年　塚本唯さん(12)



仙台城南高2年　小岩楓さん(16)

仙台城南高2年　小野寺淳さん(17)

仙台城南高2年　為永竜二さん(17)

東北工大1年　小林[illegible]さん(18)

東北工大4年　沢田[illegible]さん(22)

東北工大4年　中嶋[illegible]さん(21)